

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

朝顔の花

「しずか
『閑さや 岩にしみ入る 蝉の聲』 松尾芭蕉が山形市の立石寺（山寺）に参拝した際に詠ん
だ句で、「奥の細道」に収録されています。有名な句なので知っている人も
たくさんいると思います。一度声を出して読み、この時の情景や芭蕉の心
情を思い描いてみてください。

今年は梅雨入りが遅く、うっとうしい日々が続いていますが、晴れた日には北館中庭の木々から
蝉の音が響いています。これからの夏本番の猛暑では、熱中症が心配されます。こまめな水分補給、
十分な睡眠など自分自身の体調管理をしっかりと行ってください。

さて、今日で 1 学期が終わります。1 学期は学校全体の大きな行事として 6 月初めに中等祭を行
いました。皆さんの頑張りで、大きな成果を上げることができました。

明日から夏休みがスタートしますが、セミナーや講習等で多くの生徒が登校します。中々、休み
気分にはならないですが、時間を有効に使い、充実した日々を過ごして欲しいと思います。また、
来週には三者面談が行われます。1 学期を振り返り、学習面や生活面を中心に頑張った点や努力を
要する点をしっかり確認し、新たに目標を設定して欲しいと思います。

話は変わりますが、「朝顔の花はいつ開くのか」という疑問をもって中学 1 年生の時に自由研究
に取り組み、その後、朝顔の研究を一生の仕事にした人がいます。貝原純子さんという方で、高校・
大学と生物学を一生懸命学び、卒業後も研究を続け、「アサガオのすいみん時間」という本も出版
されました。

貝原さんの疑問は「どうして朝顔は朝になって、あの太輪の花を咲かせるのだろうか」と言うこ
とでした。それは、気温の変化や光のせいであろうかと考え、いろんな方法で実験するが、なか
なかわからない。ずっと一定の温度の中に置いても、あるいは一日中光を与え続けても朝顔のつぼみ
は開きませんでした。その後、朝顔の花が開くためには、夜の暗さが必要ではないかと考え、観
察を続けました。その結果、朝顔の花は、朝の光を浴びて咲くのではなく、日が暮れて 8~10 時間後
に開くことを発見しました。つまり、夜の暗さこそ大事な時間なのです。

朝顔を人生に置き換えるのは少し飛躍がありますが、私たちが**希望という太輪の花を咲かせるた
めには、つらくて苦しい夜のような暗闇を通り抜けなければならないのです。**

「人生時間」という考え方があります。自分の人生を一日の時間で表し、長い時間を短い時間
に置き換えてわかりやすく考えようとする考え方です。簡単に自分の年齢を 3 で割ればよいと言わ
れています。18 歳の方は 3 で割ると 6 時、15 歳の方は 5 時、12 歳の方は 4 時になります。つまり、
皆さんの「人生時間」は夜明け前です。

皆さん一人一人は素晴らしい才能を持っています。将来、その**才能のつぼみを咲かせるためには、
この夜明け前の時間にしっかり力を蓄える**ことが大切です。

夏休みは、まさにその時期ではないでしょうか。しっかりと計画を立てて過ごしてください。